

議案第1号 2004(平成16)年度活動経過報告(案)について

はじめに

2002年10月15日から18日まで、110の国と地域から3,113名の参加者を迎え、3,300名の市民ボランティアを含め、多くの方々の支援により、国内外から高い評価を受け、成功のうちに終了した「第6回DPI世界会議札幌大会」(以下、DPI札幌大会)開催から2年半以上が過ぎた。

「大会までになにをつくり、大会後になにを残すか?」「大会を単なるイベントに終わらせない。」ことを目標としてきた「2002年第6回DPI世界会議札幌大会組織委員会」(以下、組織委員会)及びDPI札幌大会に参加した道内の障害当事者が中心となって、2003年10月17日に「DPI北海道ブロック会議設立総会」を開催した。設立総会では「DPI北海道ブロック会議」(以下、DPI北海道)としてDPI札幌大会終了時に採択された障害者権利条約と障害者差別禁止法の制定などを求めた「札幌宣言」の実現と地域における障害者に関する制度・政策提言などの活動方針を確認した。

そして、翌18日には、「障害者基本法改正と差別禁止法」と、この年の4月からスタートした「支援費」をテーマとした分科会及び「障害者権利条約」を取り上げたシンポジウムを内容とした「DPI札幌大会1周年記念集会」を開催した。

これは、大会開催地である北海道での、あらたな運動のスタートの1歩であり、DPI北海道の活動の方向性を確認するものであった。(資料18、89～90ページ参照)

全体報告

昨年の第2回DPI北海道ブロック会議通常総会では、DPI日本会議の尾上事務局長から「支援費と介護保険の統合について(以下、統合問題という)」と題した記念講演を行った。新しい年度のスタートで実施したこの講演のテーマであった統合問題については、DPI日本会議を中心とした障害当事者運動及び各界の反対によりその実現を阻止することができた。

しかし、障害者福祉施策を取り巻く環境は、極めて厳しいものがある。統合問題が進められる中、厚生労働省は、10月に「今後の障害保健福祉施策について(改革のグランドデザイン案)」を示し、統合問題が白紙になった後の2月には、「障害者自立支援法案」を国会に上程した。

この「障害者自立支援法案」では、統合問題で課題及び問題点として障害当事者団体が危惧した「費用負担」、「審査会」については、介護保険の実施形態を基本的に引き継ぐ案となっているだけでなく、更に、精神障害者の通院費をはじめとする「公費医療負担」、「移動支援」、「グループホームとケアホーム」及び「障害程度区分による予算運用」等の見直しが加わり、これらについては、障害者の地域生活の実現ではなく、むしろその阻止を図る内容であると言わざるを得ないものがある。

この「障害者自立支援法案」は、障害当事者団体の全国及び各地域での運動、国会での公聴会の開催などにより議論が進められ、マスコミにも報道されている。

当初、5月中旬にも法案が衆議院を通過することも予想されたが、現在、与党が強行採決する動きはなく、社民党、共産党が廃案を求め、民主党が抜本的な修正項目を提示し、引き続き国会の場において議論される。今後は、7月3日の都議選後に再び大きな動きが起きてくると思われる。(自民党、公明党、民主党の対応方針は、資料10～11、58～64ページ。経過は資料13、65～81ページ参照)

DPI北海道では、法案上程直後の今年2月に開催した「障害者の明日を考える緊急道民シンポジウム」(資料8、56ページ参照)をはじめ、全国の障害当事者運動との連携を重視しながら、道内の当事者団体との連携のもとに北海道及び札幌市への要請行動等を進めてきたが、引き続き、DPI日本会議と連携を密にして、現在の障害者福祉サービスが低下することなく、身体、知的、精神障害者が地域で生きる基盤を整備する制度及び制度の間の障害者への支援も含めた制度になるよう道内の各障害者団体との連携の基に運動を継続していかなければならない。

その他、以下に記載した課題ごとの取り組みのほか、5月に新千歳空港で起きたJALの対応問題や7月に車いすバスケットボールを素材とした「ウイニング・パス」上映への協力とイラク戦争に反

対する集会の共催等を実施してきた。

以下、2004年度のD P I北海道の主要な活動の報告とする

「北海道の障害者福祉行政を考える会」の活動

2003年8月、北海道は、「道立障害児（者）施設」（以下、道立施設）についての見直しを検討する「道立障害児（者）施設の見直しに関する懇話会（以下、懇話会）」（座長：横井寿之北海道医療大学教授）を同年9月から設置し、5回の議論を経て、2004年4月に「道立障害児（者）施設見直し方針」を発表した。

D P I北海道としては、施設解体を大きな目標としていることから、当初からその懇話会の委員に障害当事者委員を半数以上入れることを非公式ながら要望していたが、結果として委員9名中1名のみが障害当事者委員となった。

このことから、D P I北海道としては、当事者主体と脱施設を基本としているD P I運動の理念に基づき、D P I北海道内にプロジェクトチームとして、外部からのメンバーも加えた13名（他オプザーバー個人3名、団体2団体）で「北海道の障害者福祉行政を考える会（以下、考える会）」を設置し、道立施設の視察や会議などにより検証作業を2003年11月から行っている。

特に2003年11月に実施した4カ所の道立施設の視察は、参加したメンバーに、あらためて北海道が進める計画案に、利用者である障害当事者の声が反映されているのか、また、この計画の情報を利用者や家族などにきちんと伝えているのか、と言った疑問や施設のあり方について考える格好の機会となった。

考える会では、この検証内容をまとめて、2003年12月に北海道保健福祉部障害者保健福祉課へ障害当事者の参加を求めるなどの内容を盛り込んだ要望書を提出するとともに、北海道議会の各会派にこれらの趣旨の説明を実施し、賛同と協力依頼を行った。

これらの活動の成果として、2003年12月に行われた「懇話会」で7名の当事者（3名身体障害、3名知的障害、1名親・支援者）が意見を述べ、施設をなくすこと、また、施設の議論だけではなく、地域生活支援サービスのあり方についての議論の必要性などを意見として述べた。北海道では、「懇話会」のまとめとして、道立施設のあり方についての見直しの方針を2004年4月に打ち出したが、それに先立つ2月、新たに地域生活支援のあり方について検討する「北海道障害者地域生活支援体制検討会議」（以下、検討会議）を立ち上げ、この検討会議の委員構成10名中3名が障害当事者（身体・知的・精神から各1名）となったこと、また、検討会議において地域生活支援のあり方についての議論が中心となることなどD P I北海道の活動が成果となって表われた。

しかし、考える会が提出した要望書に対する北海道側の回答については、非常に漠然としたものであり、さらに2004年4月に発表された道の方針は、結果として施設解体ではなく、一部縮小と統合などの方向が示されただけのものとなった。

D P I北海道としては、これまでの取り組みの総括として2004年3月末に「北海道立障害児（者）施設と障害者自立生活支援を考える道民集会」を開催したが、今後も施設に入所している障害者の地域生活移行の具体的な実現へ向けての運動の継続が必要であるし、以下にも記してある「北海道障害者地域生活支援体制検討会議」への関わりも重要と考えている。

「北海道障害者地域生活支援体制検討会議」への参加

北海道は、道立施設だけではなく、地域生活支援のあり方についても議論をする場が必要であるという先述の「懇談会」（2003年開催）の提言を受けて、障害者の地域生活支援を総合的に進め、必要な対応を幅広く検討することを趣旨とした「北海道障害者地域生活支援体制検討会議（以下、検討会）」（座長：横井寿之北海道医療大学教授）を2004年2月に設置した。

検討会議には、身体、知的、精神の各当事者がそれぞれ1名の参加をはじめ、障害者福祉に関わる研究者、施設関係者、在宅福祉サービス提供者及び市町村等からの合計10名による委員で構成し、課題についての意見交換を行い、地域生活に必要なサービスや地域資源、支援体制等について検討して

いくものとなり以下の内容の検討を2年間かけて議論することとし、最初の1年間は毎月、検討会議が開催された。

- (1) 地域生活支援体制の構築に関すること
- (2) 地域生活支援に係るサービスに関すること
- (3) 地域生活の支援に必要な資源及び人材に関すること
- (4) その他検討会議が必要と判断すること

検討会議では、今年の3月に「地域生活を支える体制について」(資料14、83～84ページ参照)をまとめ、4月に道のホームページで公表されたが、D P I北海道としては、引き続きこの検討会議に参加している当事者3名(D P I関連団体から参加)と連携を図りながら当事者主体の地域生活支援について提起していく必要があると考えている。

「札幌市障がい者による政策提言サポーター会議」への参加

「障がい者による政策提言サポーター制度」は、札幌市の上田市長の政策方針「さっぽろ元気ビジョン」(2003年)に掲げられている「市民自治が息づくまちづくり」の方策の一つとして創設されたものであり、D P I北海道関係団体からサポーター委員として参画している。

この制度は、障害者の思いや考えを、同じ立場で共有することができる当事者が、障害者の意見の聞き取り役や取りまとめ役となって政策提言を行うことにより、障害者の意見を市政に反映させることを趣旨とし、サポーター委員の委嘱は2003年12月に行われ、具体的な活動は2004年2月から始められている。

この制度は、聞き手となるサポーターと意見を述べる障害者とその家族等により、あらかじめ設定したテーマに基づく懇談会(参加者の募集は、「広報さっぽろ」及び各区役所に案内チラシを配備し自由参加)を2ヵ月に1回程度開催することと毎月1回程度、市役所に会場を設定し、障害者などが直接、サポーターに意見を伝える意見聴取を個別実施しており、8月には、D P I北海道からも要望及び提案書を提出した。(資料1、43～46ページ参照)

サポーターはこれらに寄せられた意見をもとに調整会議を行い、ここでの議論を経て政策提言書をまとめ、9月頃に市長に提出し、翌年4月に提言書の取組状況等について市民に公表することになっているが、昨年9月、初めてとなる提言書を市長に提出し、今年の4月に札幌市の取組状況が発表された。(資料参照)

このサポーターは、市長選出6名と公募の6名の合計12名で構成し、2年間の任期(第1期：2003年12月～2005年12月)となっており、懇談会のテーマ選定や当日の進行など、サポーターが自主的に運営している。

D P I北海道は、当事者参加と主体、そして政策提言をその活動の基本としていることから、この制度を支持するとともに、D P I北海道の理事でありサポーターである当事者との連携した対応を今年度も引き続き進めていくことが必要である。

「北海道の医療費助成制度を考える連絡会」の活動

2003年12月に北海道は、財政再建の名のもとに「重度心身障害者医療給付事業」の見直しを発表し、それまでの初診料のみの負担から、通院、入院においてそれぞれ月額上限額(通院12,000円・入院40,200円)を設定した上で、一割をすべての住民税課税世帯の利用者に負担させる方針を示した。

この方針に対して、方針を示された障害者団体が集い、この見直しの撤回と精神障害者への制度適用を求めることを運動の目標に掲げた「北海道の医療費助成制度を考える連絡会」(以下、連絡会)を設立した。

D P I北海道の小谷晴子理事(NPO法人札幌アシストセンター・マザー)を代表に、事務局を江刺氏(障害者の生活と権利を守る北海道連絡協議会=現在は、榛葉氏)黒沢氏(障害者の生活と権利を守る北海道連絡協議会)とD P I北海道の理事でもある山崎氏(北海道精神障害者回復者クラブ連合会)及び、D P I北海道の議長と事務局長が担い、連絡先をD P I北海道として道内の障害者団体へ、

この運動への参加の呼びかけを行った。

その後、昨年2月末には道内の142団体（現在174団体）の賛同を得て、北海道知事と北海道議会議長宛にそれぞれ要望書と陳情書を提出した。

北海道知事からは要望に対する拒否の回答があったが、北海道議会では各会派へ働きかけを行ったことなどもあり、陳情書は、現在も継続審議中となっている。

その後の活動において、北海道難病連（DPI北海道参加団体）とも協力しながら、難病患者に対する医療助成についても運動として取り組むことが確認され、以降の呼びかけ文章等には難病患者に対する医療費助成制度（北海道特定疾患対策単独事業）の継続も表記している。

さらに昨年4月には札幌市長と札幌市議会議長宛にそれぞれ要望書と陳情書を提出し、受理され、陳情書については継続審議となった。また、活動が功を奏し、札幌市議会として北海道へ意見書も出された。

その後、札幌市は北海道の制度を基に、独自の緩和策として札幌市の医療助成制度を発表した。これらは私たちの活動の影響もあったものとして捉えている。

昨年6月には患者団体代表とともに知事と面談する場が設けられたが、残念ながら医療費の見直しについては財政等の問題から変更が出来ないという話があったが、道議会においては、医療費見直しにあたっては影響などを勘案し、フォローアップも行うようにという意見が出され、フォローアップに関する事業について、道の担当者らと懇談会をこれまで数回行なってきた。残念ながら、医療費の見直しは、昨年10月から実施され、住民税課税世帯について1割の負担が課せられたが、今後は影響調査なども行いながら、引き続き、各関係団体とも協力をしながら運動を進めていかなければならない。

これまでに寄せられた署名は、本年3月末現在で28,704筆が寄せられ、3回に分けて道庁へ提出するとともに、道議会の各会派へも報告を行った。これら寄せられた多くの声にも力づけられるが、我々の役割にも責任を感じている。（資料15～17、85～88ページ参照）

おわりに

国連では「障害者権利条約」制定に向けて確実に議論が進められている。

2002年秋に札幌から世界に宣言した障害当事者の「夢」と「願い」が近い将来に実現されるだろう。

しかし、この条約ができただけで、障害者の生活が一変するわけではない。障害者の生活を改善しその差別を無くすためには、障害者自身が声を上げ行動をしていくことが、まず求められている。

「障害者自立支援法案」に対しても、今年度見直しされる「交通バリアフリー法」に対しても、そして北海道や札幌市における様々な施策に対しても、法や制度の適用を受ける当事者が自らの生活と経験から発言していくことこそが、本当に必要な、そして、実態に即した法や制度の構築につながると私たちは、確信している。

「われら自身（障害者）の声！」と主張したDPIの基本理念。「私たち抜きで、私たちのことを決めないで！」と叫んだ障害当事者の声のもと国際的には、「障害者権利条約」の議論が進められ、国内においても多くの障害者とその種別を超えて連帯した運動を進めている。

私たちは、DPI日本会議の初の地方組織として、DPI理念に基づき、今後の活動を展開することを確認して、以下、昨年度の具体的な活動状況を別表のとおり報告する。

1 組織活動

(1) DPI 日本会議関連について

第20回 DPI 日本会議全国集会 in 三重[三重県津市：アスト津](6月26～27日)

- ・ 総会
- ・ 全体会：特別報告「障害者権利条約策定の動向～現状と課題」 小川英俊氏(外務省人権人道課)
シンポジウム「障害者を取りまく状況と権利条約に期待するもの」
コーディネーター 金 政玉 (DPI 権利擁護センター 所長、DPI 日本会議事務局次長)
シンポジスト 東 俊裕 (DPI 日本会議常任委員、弁護士)
小森 猛 (DPI 日本会議常任委員、全国頸髄損傷者連絡会会長)
小川英俊氏(外務省人権人道課)
- ・ 分科会： 1 交通・まちづくり「交通バリアフリー法の成果と課題」
2 地域生活支援「支援費制度と介護保険についての情勢報告」
3 障害者差別禁止法「なぜ障害者差別禁止法が必要なのか」
4 教育「障害児・者教育は、いま」
- ・ 介護保険統合反対緊急アピール採決
DPI 日本会議臨時総会[東京：ちよだプラットホーム](2月27日)
定款変更

DPI 日本会議常任委員会 (2月1回開催)

ア 2003年度第6回会議開催[東京：新宿区障害者福祉センター](5月1～2日)

- ・ 報告事項：基本法改正、JDF、精神障害者関連、IDRM 等
- ・ 協議事項：介護保険統合対応、支援費対応(一般財源化阻止6.9行動、参議院選公開質問)、総会準備、国際会議・活動報告) 等

イ 2004年度臨時会議開催[三重県津市：アスト津](6月26日)

役員選出：議長 三澤了 副議長 楠 敏雄・平野みどり・西村正樹
事務局長 尾上浩二 事務局次長 金 政玉・加藤真規子
国際問題 中西由起子 条約担当 東 俊祐
交通問題 今福義明 世界評議会財務、アジア・太平洋ブロック議長 中西正司

ウ 2004年度第1回会議開催[東京：和泉橋区民会館](8月7～8日)

- ・ 報告事項：総会、韓国青年学校、南部アフリカ障害者研修、JDF 等
- ・ 検討課題：在り方検討会総括、支援費(包括方式)対応、介護保険統合対応 等

エ 2004年度第2回会議開催[東京：新宿区立障害者福祉センター](10月2～3日)

- ・ 報告事項：南部アフリカ障害者研修、権利条約第4回特別委員会、JDF 準備会幹事会報告 等
- ・ 検討事項：在り方検討会総括、支援費制度改訂案(包括方式)への対応、介護保険統合対応 等

オ 2004年度第3回会議開催[東京：新宿区立障害者福祉センター](12月25～26日)

- ・ 報告事項：発達障害者支援法、交通バリアフリー法見直し、JDF 幹事会 等
- ・ 検討事項：介護保険、グランドデザイン(案)、2005年度総会&北東アジア小ブロック会議 等
- ・ 学習会：障害者権利条約と精神障害者の人権

カ 2004年度第4回会議開催[東京：千代田区富士見区民館・ちよだプラットホームスクエア](2月26～27日)

- ・ 報告事項：全国大行動、交通バリアフリー法見直し、権利条約、JDF 等
- ・ 検討事項：グランドデザイン案への対応、2005年度総会 等
- ・ 学習会：合理的配慮とは

D P I 日本会議役員会議（2 月 1 回開催）

- ア 2003年度第 5 回会議開催[名古屋：A J U 自立の家]（4月17日）
- ・ 報告事項：基本法、障害者雇用、無年金問題、韓国 D P I 関連活動、精神障害者関連課題 等
 - ・ 協議事項：介護保険統合、総会準備、役員人事、財政・基金、国連特別委員会 等
- イ 2004年度第 1 回会議開催[東京：D P I 日本会議]（7月19日）
- ・ 報告事項：総会、韓国青年学校、南部アフリカ障害者研修、J D F、国連特別委員会 等
 - ・ 検討課題：在り方検討会総括、支援費（包括方式）対応、介護保険統合対応 等
- ウ 2004年度第 2 回会議開催[東京：D P I 日本会議事務局]（9月20日）
- ・ 報告事項：南部アフリカ障害者研修、J D F、国連特別委員会、DPI 世界評議会、公明党フォーラム 等
 - ・ 検討課題：韓国青年学校研修、在宅障害者調査、介護保険統合対応 等
- エ 2004年度第 3 回会議開催[東京：神保町区民館]（10月30日）
- ・ 報告事項：韓国青年学校、J D F、10.20全国行動、交通バリアフリー法見直し、要介護認定
 - ・ 検討課題：発達障害者支援法、介護保険統合、グランドデザイン案
- オ 2004年度第 4 回会議開催[東京：D P I 日本会議事務局]（11月21日）
- ・ 報告事項：発達障害者支援法、在宅障害者ニード調査、J D F、交通バリアフリー法見直し 等
 - ・ 検討課題：介護保険統合問題、「グランドデザイン」対応、2005年度総会準備
- カ 2004年度第 5 回会議開催[東京：D P I 日本会議事務局]（1月23日）
- ・ 報告事項：在宅障害者ニード調査、J D F、交通バリアフリー法見直し 等
 - ・ 検討課題：総会・北東アジア小ブロック会議、介護・グランドデザイン関連、スマトラ沖地震
- キ 2004年度第 6 回会議開催[東京：D P I 日本会議事務局]（3月27日）
- ・ 報告事項：在宅障害者ニード調査、J D F、交通バリアフリー法見直し、スマトラ沖地震救援
 - ・ 検討課題：2005年度予算修正、総会・北東アジア小ブロック会議、自立支援法案対応 等

事務局会議（常任委員会及び役員会に併せて開催）

- ア 会議開催[東京：新宿区障害者福祉センター]（5月 1日）
- イ 会議開催[東京：D P I 日本会議事務局]（7月19日）
- ウ 会議開催[東京：和泉橋区民会館]（8月7日）
- エ 会議開催[東京：D P I 日本会議事務局]（9月5日）
- オ 会議開催[東京：D P I 日本会議事務局]（9月20日）
- カ 会議開催[東京：D P I 日本会議事務局]（11月21日）
- キ 会議開催[東京：D P I 日本会議事務局]（3月27日）

その他

- ア 介護保険と障害保健福祉施策の関係を考える「4.30公開対話集会」[東京：中野サンプラザ]（4月30日）
- イ 障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動[東京：厚生労働省前]（6月9日）
- ウ 障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動[東京：厚生労働省前]（10月20日）
- エ 日本障害フォーラム（J D F）設立記念セミナー[東京：灘尾ホール]（10月31日）
- オ 第10回障害者政策研究集会[東京：戸山サンライズ]（12月11日～12日）
- カ 障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動[東京：厚生労働省前他]（2月15～16日）

（2）D P I 北海道ブロック会議関連について

第 2 回 D P I 北海道ブロック会議通常総会 & 記念講演会[札幌市身障福祉センター]（5月29日）

- ・ 報告：2003年度活動経過報告について・2004年度予算について
- ・ 議題：2003年度決算案及び監査報告・2004年度事業計画・2004年度理事及び役員体制
- ・ 記念講演：「支援費と介護保険の統合について」 DPI 日本会議事務局次長 尾上浩二

D P I 北海道ブロック会議理事会

- ア 2003年度第4回会議開催[札幌市身障福祉センター] (5月29日)
- イ 2004年度第1回会議開催[札幌市身障福祉センター] (5月29日)
- ウ 2004年度第2回会議開催[北海道自治労会館] (8月28日)
- エ 2004年度第3回会議開催[札幌市身障福祉センター] (11月27日)
- オ 2004年度第4回会議開催[北海道自治労会館] (2月19日)
- カ 2004年度第5回会議開催[北海道自治労会館] (3月31日)

D P I 北海道ブロック会議役員会

- ア 2003年度第3回会議開催[ほくろうビル] (5月23日)
- イ 2004年度第1回会議開催[かでの2・7] (8月15日)

D P I 北海道ブロック会議事務局会議

- ア 2003年度第5回会議開催[ほくろうビル] (5月11日)
- イ 2004年度第1回会議開催[かでの2・7] (7月27日)

北海道の障害者福祉行政を考える会

- ア 第1回会議開催[ほくろうビル](8月18日)
 - ・ 地域生活移行プログラム及び札幌市障がい者によるサポーター会議提言書の内容検討。
- イ 第2回会議開催[C I L さっぽろ](8月26日)
 - ・ 地域生活移行の実践報告と地域生活移行プログラム内容検討。
- ウ 第3回会議開催[C I L さっぽろ](9月7日)
 - ・ 地域生活移行プログラムアンケート調査票内容の検討。
- エ 第4回会議開催[アーバン札幌ビル](9月21日)
 - ・ 在宅障害者の介護保険と支援費制度のサービス適用に関する調査対応検討。
- オ 第5回会議開催[札幌市身障福祉センター](10月25日)
 - ・ 施設利用者の地域生活移行に関するプロジェクトの実施について。
- カ 第6回会議開催[札幌市身障福祉センター](11月1日)
 - ・ 施設利用者の地域生活移行に関するプロジェクトの実施について。
- キ 第7回会議開催[C I L さっぽろ](11月19日)
 - ・ 地域生活移行実践報告

北海道障害者地域生活支援体制検討会議(毎月1回実施)

委員(当事者) : 我妻 武(身体)、三浦正春(知的)、細川 潮(精神)

委員(非当事者) : 横井 寿之 氏(座長: 北海道医療大学教授)

大久保 薫 氏(社会福祉法人 札幌この実会)

吉本 政秀 氏(社会福祉法人 せらび)

田中 雅之 氏(社会福祉法人 厚生協会)

日置 真世 氏(NPO法人 地域生活支援ネットワークサロン)

福士 憲昭 氏(社会福祉法人 南富良野大乘会)

石田 信雄 氏(斜里町保健福祉部)

- ア 第3回会議開催[道庁別館] (4月19日)
内容: 道内における相談支援の取組について 事例発表(2件)
- イ 第4回会議開催[道庁別館] (5月17日)
内容: 道内における相談支援及び特別支援教育の取組について 事例発表(2件)
- ウ 第5回会議開催[かでの2・7] (6月28日)

	内容：地域における相談支援の取組に関する報告	事例発表（2件）
エ	第6回会議開催[道立心身障害者総合相談所]（7月23日）	
	内容：入所施設利用者の地域生活への移行及び相談支援の在り方について	事例発表（1件）
オ	第7回会議開催[かでの2・7]（9月6日）	
	内容：施設利用者の地域生活移行及び市町村の地域生活支援の取組について	事例発表（1件）
カ	第8回会議開催[かでの2・7]（9月17日）	
	内容：道立施設の地域生活移行の取組について	事例発表（2件）
キ	第9回会議開催〔エスカル釧路〕（10月29日）	
	内容：入所施設のあり方及び釧路地域の取り組みについて	事例発表（3件）
ク	第10回会議開催〔かでの2・7〕（11月15日）	
	内容：今後の取組について	
ケ	第11回会議開催〔かでの2・7〕（12月20日）	
	内容：入所施設利用者の地域生活への移行について	
コ	第12回会議開催〔札幌ガーデンパレスホテル〕（1月24日）	
	内容：障害者への就労支援の取組	事例発表（2件）
サ	事務局会議[道庁西別館]	
	内容：意見のとりまとめ	
シ	第13回会議開催〔かでの2・7〕（3月25日）	
	内容：意見のとりまとめ	

札幌市障がい者による政策提言サポーター会議

代表：我妻 武（市長推薦）

委員：浅香博文、小山内美智子、竹田 保、三浦正春（市長推薦） 他7名

- ア 事務連絡会[札幌市役所またはウエスト19]
- ・ 第3回会議開催[内容：懇談会の設定と意見聴取の方法など](5月10日)
 - ・ 第4回会議開催[内容：提言書について](9月)
 - ・ 第5回会議開催[内容：提言書回答の進捗と新年度計画について](1月28日)
 - ・ 第6回会議開催[内容：新年度のスケジュール等について](2月25日)
- イ 懇談会[札幌市社会福祉総合センター](2カ月に1回程度 14:00～16:00)
- ・ 第2回会議開催[内容：教育問題とバリアフリーについて](4月27日)
 - ・ 第3回会議開催[内容：支援費制度・就労問題について](6月29日)
 - ・ 第4回会議開催[内容：提言書提出にあたっての意見交換](8月30日)
- ウ 意見聴取[札幌市役所](毎月1回程度実施)
- ・ 第2回(4月28日)
 - ・ 第3回(5月26日)
 - ・ 第4回(6月23日)
 - ・ 第5回(7月29日)
- エ サポーター提言書ワーキングチーム会議
- ・ 第1回会議開催[札幌市社会福祉総合センター](6月29日)
 - ・ 第2回会議開催[ウエスト19](7月16日)
 - ・ 第3回会議開催[札幌市社会福祉総合センター](7月30日)
- オ その他
- ・ 研修会「就労問題と支援費制度について」[札幌市役所](6月18日)
 - ・ 市長との懇談「提言書の間接報告について」[札幌市役所](8月2日)
 - ・ 提言書の提出[札幌市役所](9月22日)
 - ・ 学習会「障害者自立支援法案について」[札幌市役所](3月30日)

北海道の医療費助成制度を考える連絡会

- ア 第1回事務局会議[札幌市身障福祉センター](4月8日)
- イ 北海道難病連との事務打合せ[北海道難病センター](4月14日)
- ウ 第2回事務局会議[札幌市身障福祉センター](4月16日)
- エ 連絡会第3回全体会議[札幌市身障福祉センター](4月22日)
- オ 第3回事務局会議[札幌市身障福祉センター](5月7日)
- カ 街頭署名活動[札幌市：大通公園3・4丁目](5月15～16日)
- キ 札幌市議会各会派説明[札幌市役所](6月4日)
- ク 札幌市議会厚生常任委員会陳情書趣旨説明[札幌市役所](6月7日)
- ケ 北海道の医療費助成制度を考える緊急道民集会[かでの2・7](6月8日)
- コ 北海道知事及び北海道議会議長へ署名提出と陳情書賛同追加団体提出[道庁・道議会](6月8日)
- サ 第4回事務局会議[札幌市身障福祉センター](6月30日)
- シ 第5回事務局会議[札幌市社会福祉総合センター](7月13日)
- ス 知事面談[北海道庁](7月26日)
- セ 障道協行動[北海道議会](8月3日)
- ソ 第6回事務局会議[札幌市身障福祉センター](8月5日)
- タ 第7回事務局会議[札幌市身障福祉センター](8月12日)
- チ 連絡会第4回全体会議[札幌市社会福祉総合センター](8月19日)
- ツ 第1回フォローアップ事業に関する意見交換会[北海道庁](8月27日)
- テ 第8回事務局会議[札幌市身障福祉センター](9月4日)
- ト 第9回事務局会議[札幌市身障福祉センター](9月11日)
- ナ 第2回フォローアップ事業に関する意見交換会[北海道庁](9月14日)
- ニ 第3回フォローアップ事業に関する意見交換会[北海道庁](9月16日)
- ヌ 第10回事務局会議[札幌市身障福祉センター](9月17日)
- ネ フォローアップ事業に関する意見書提出[北海道庁](9月24日)
- ノ 北海道知事及び北海道議会議長へ署名提出と陳情書賛同追加団体提出[道庁・道議会](9月24日)
- ハ 医療費見直し実施直前 道民集会～難病患者の医療制度を後退させないために～[かでの2・7](9月25日)
- ヒ 第11回事務局会議[札幌市身障福祉センター](9月28日)
- フ 第12回事務局会議[札幌市身障福祉センター](10月12日)
- ヘ 第13回事務局会議[北大病院](10月21日)
- ホ 第14回事務局会議[北大病院](11月18日)
- マ 第4回フォローアップ事業に関する意見交換会[北海道庁](12月17日)
- ミ 第15回事務局会議[かでの2・7](1月27日)
- ム フォローアップ事業(手帳見直し)に関する意見交換会[JR札幌駅](1月30日)
- メ フォローアップ事業(手帳見直し)に関する意見交換会[道庁西別館](2月17日)
- モ 第16回事務局会議[かでの2・7](2月22日)
- ラ NHK取材対応(3月1日)
- リ 第17回事務局会議[北海道難病連](3月8日)
- ル NHK道内ニュース放送
- レ 北海道知事及び北海道議会議長へ署名2,853筆追加提出[北海道庁・道議会](3月24日)
- ロ 北海道難病連と共同で声明発表[道庁内道政記者クラブ](3月25日)

「しょうがいしゃの地域生活確立の実現を求める北海道行動」実行委員会

- ア 11.14障害者の地域生活確立の実現を求める北海道行動[教育文化会館](11月14日)
- イ 同 行政及び政党要請行動[札幌市・北海道・各政党](11月15日)
- ウ 障害者の地域生活確立の実現を求める北海道集会[かでの2・7](3月14日)

エ．障害者の地域生活確立の実現を求める北海道集会の要請行動[道庁・札幌市](3月16日)

札幌市子どもの権利条例制定検討委員会
説明会[札幌バスセンタービル1号館](3月7日)

その他の活動

- ア．「支援費制度支給決定に関する質問書」提出[札幌市](5月27日)
- イ．「6.4対応への照会と話し合いの申し入れ」提出[JALヘルズ北海道支社、JALスカイ札幌](6月18日)
- ウ．「(仮称)札幌市立大学への期待と協力表明について」提出[札幌市](7月7日)
- エ．JALスカイ札幌との話し合い[札幌・障害者活動支援センターライフ](7月20日)
- オ．「札幌市障がい者によるサポーター会議」へ意見書提出[札幌市](8月20日)
- カ．「道路公団障害者割引制度説明」[道立心身障害者総合相談所](9月3日)
- キ．「公明党：列島縦断札幌フォーラム」出席[札幌グランドホテル](9月12日)
- ク．「改革のグランドデザイン(案)に対する対応に関する質問書」提出[札幌市](12月16日)
- ケ．「改革のグランドデザイン(案)に対する対応に関する緊急要望書」提出[札幌市](12月28日)

2 広報、啓発、調査等事業

(1) 学習会及びプロジェクト

「支援費と介護保険」(第2回通常総会で記念講演会として開催)

～障害者福祉は、昨年4月に利用者本位に基づく支援費制度として新たにスタートした。しかし、今、介護保険の見直しと支援費の財源の問題などから異なる2つの制度がひとつになる動きが起きている。支援費と介護保険が何故一緒にされるのか？一緒にされることで、生じる課題は、なんなのか？そして、この制度は、統合されるのか？を最新の情報から学び考え、そして障害者や高齢者へのあるべき介護制度などを考えるとともにDPI北海道としての見解と対応を確定する。～

「施設に入所する障害者の地域生活移行の実現のために果たす当事者運動と施設の役割」

「北海道の障害者福祉行政を考える会」として検討し2005年度事業化

～今の障害者福祉の柱は、在宅福祉である。住み慣れた地域で障害があっても自分らしく生きていくことが大切だとも言われる。しかし、多くの障害者は、施設での生活を余儀なくされている。地域生活を実現するための課題。障害者本人や施設や家族が抱える課題と不安。そうした理想と現実から施設に入所している障害者の地域生活移行についての課題を検証し、障害当事者運動と施設等の果たす役割について考えるとともにDPI北海道としての対応を検討する。～

「障害者権利条約と障害者差別禁止法」(第3回通常総会で記念講演として開催)

～2002年10月に「DPI札幌大会」は、国際的には、障害者権利条約と国内的には、障害者差別禁止法の制定を求め運動を進める「札幌宣言」を採択した。一般の生活に馴染みが薄いといわれる「条約」の制定が一般の生活にどんな影響を与えるのかを学ぶとともに、これまで、国会で議論されてきた「障害者基本法改正」と「障害者差別禁止法」の違いとその制定による影響。そして「国際的な条約」と「国内法」の関係やその内容を検証しその必要性と課題を考えとともにDPI北海道としての見解と対応方針を確定する。～

「地域自立生活支援の視点から改革のグランドデザイン案を読む」[ほくろビル](11月6日)

「障害者の明日を考える緊急道民シンポジウム[札幌市身障福祉センター](2月20日)

- (2) 「ウイニング・パス」北海道上映実行委員会
「ウイニング・パス」北海道上映準備会会議[京王プラザホテル札幌](4月15日)
「ウイニング・パス」試写会[かでの 2・7](4月27日)
「ウイニング・パス」試写会[きたえーる](5月29日)
「ウイニング・パス」上映[道新ホール](7月11日)
- (3) D P I 日本会議機関誌等への寄稿
「新千歳空港におけるJIL搭乗手続きでのトラブル」(Vol.20.2 2004年6月22日発行)
「北海道の医療費助成を考える連絡会」活動報告から (Vol.20.3 2004年9月24日発行)
「東京の行動を北海道でも」(Vol.20.4 2005年1月21日発行)
- (4) ホームページの充実と情報提供
- (5) メール、F A Xによる各種情報提供
- (6) 講演会、諸会合への講師派遣等
障害者ワーカーから札幌・障害者活動支援センターの15周年を祝う会[札幌市庁舎](4月23日)
障害者ワーカーから札幌・障害者活動支援センターの15周年記念チャリティコンサート[ちえりあ](4月24日)
障害者フライングディスク総会[かでの 2・7](4月27日)
イラク戦争とマスメディアを考える全道集会[かでの 2・7](5月19日)
2004年度北海道ユニバーサルデザイン推進機構第1回理事会&定期総会[札幌グランドホテル](5月26日)
「オーストラリアの障がい者自立生活・就労活動に学ぶ」交流会[サンプラザ](5月29日)
函館市立銭亀中学校修学旅行研修受入[エルプラザ](6月1日)
「オーストラリアの障がい者自立生活・就労活動に学ぶ」集会[ちえりあ](6月1日)
第8回ヨットエイド北海道[石狩湾新港西地区](7月18日)
第18回リハ工学カンファレンス[札幌国際コンベンションセンター](8月26日)
北海道STSセミナー[ちえりあ](10月22日~23日)
連合北海道新年交礼会[北海道厚生年金会館](1月5日)
道新グループ新年交礼会[札幌プリンスホテルパミール館](1月5日)
日教組第54次教育研究全国集会[札幌国際コンベンションセンター・かでの 2・7](1月7日~9日)
「市民が語る福祉のまちづくり」[西区民センター](2月11日)
第13回人権セミナー[札幌市社会福祉総合センター](2月13日)
共同組合 北海道イベントプロモーション協会撰理地祝賀会[札幌パークホテル](4月14日)
- (7) 会費納入促進と賛助会員の募集及び拡大について
- (8) 国連障害者の権利条約に関する特別委員会の札幌開催検討
国連第3回特別委員会[米国 ニューヨーク](5月24日~6月4日)
国連第4回特別委員会[米国 ニューヨーク](8月23日~9月3日)
国連第5回特別委員会[米国 ニューヨーク](1月24日~2月4日)
- (9) その他
2006年第7回D P I 世界会議南アフリカ大会への参加準備
2010フェスピック札幌誘致検討
D P I 世界サミット2004[カナダ ウィニペグ](9月8日~10日)

3 共催、協賛、後援、協力等事業

- (1) イラク戦争とマスメディアを考える全道集会[かでの2・7](5月19日)
- (2) 「オーストラリアの障がい者自立生活・就労活動に学ぶ」講演会[ちえりあ](6月1日)
- (3) 函館市立銭亀中学校修学旅行研修受入[エルプラザ](6月1日)
- (4) 公開セミナー「高齢者向け共同住宅の必要性和マイライフ」[札幌市東区民センター](6月5日)
- (5) 第13回YOSAKOIソーラン祭り車いす利用者招待[札幌市中央区大通西5～7丁目](6月12～13日)
- (6) 映画「ウイニング・パス」上映[道新ホール](7月11日)
- (7) 第8回ヨットエイド北海道[石狩湾新港西地区](7月18日)
- (8) 第5回バリアフリー・デザイン賞(7月25日～9月25日)
- (9) 施設なんてぶっ壊せ！！祭り[札幌市中央区大通西8丁目](10月9日)
- (10) 北海道STSセミナー[札幌市生涯学習センターちえりあ](10月22～23日)
- (11) 「アフガニスタンを忘れないで」写真展[札幌市](11月30日～12月3日)
- (12) 道警不正問題を徹底解明し、信頼回復を求める道民の会発足式[ポルター](2月28日)
- (13) 札幌市立福井野中学校(1年生)総合学習講師(3月2日)
- (14) 北海道ノーマライゼーション研究センター推進会議[かでの2・7](3月15日)
- (15) バングラディッシュ障害者支援CSIDチャリティーコンサー[共済ホール](3月18日)
- (16) 道警不正問題を徹底解明し、信頼回復を求める道民の会集会[厚生年金会館](3月18日)

4 参加集会等

- (1) ベンチレーター国際シンポジウム in 札幌[ポルト](6月20日)
- (2) 講演会「全日本手をつなぐ育成会はグランドデザイン(案)をどのように考えているか」[リカーブプラザ](12月10日)
- (3) 雪中デモ&「市民が語る福祉のまちづくり」[西区民センター](2月11日)
- (4) 第13回人権セミナー[札幌市社会福祉総合センター](2月13日)
- (5) 障道協主催：講演会「グランドデザインって何？」[北区民センター](3月26日)
- (6) NPO ライフ主催：講演会「問題が多い介護保険見直し案」[西区民センター](3月28日)

5 その他

- ・ イラク自衛隊派兵反対訴訟原告団(団長：箕輪 登氏)にDPI北海道ブロック会議事務局長参加